

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. B-44

部門名：働き方改革実践部門

エントリー名：新潟県上越市立上下浜小学校

活動名：
**減らして専念！働き方改革
 CSの強みを生かした改革の実現**

解決すべき課題：

小規模校である当校では、各種行事等が大変充実した内容で行われているが、やるべきことが年々増えていく中で、精選という視点がやや欠けていたため、職員の時間外勤務時間は多く、健康上の被害が懸念されている。また本来最も注力すべき授業づくり・学級づくりが後回しになっている感がある。そこで学校の共同経営者である学校運営協議会を大いに活用し、コミュニティ・スクールの強みを生かしながら、職員がやるべきことに注力できるよう、教育活動をシンプルにしつつ重点化を図り、職員が生き生きと働ける職場環境の構築を目指した。

目標・方針：

具体的に職員の業務負担を減らし、やるべきことに専念できるよう、次の2点を基本方針とした。
【減らす】 →行事を含むすべての教育活動を見直し、本当に必要なもの以外は思い切って改善・精選する。
【活用する】 →地域や保護者及び、近隣の教育機関を含め、業務補助、あるいは教育活動充実のために使えるもの(人材)は何でも活用する。
 これまでに長年取り組んできたことを思い切って改善・精選するには、大きな勇気や覚悟が必要になる。地域・保護者の代表からなる学校運営協議会の「承認」機能を存分に生かし、改革の実現を図りたいと考えた。

活動内容：

- ①年度初めの後援会役員会、PTA 全体会での、経営方針の説明および本年度改革への理解と協力依頼
- ②業務改善委員会及び職員研修による、全教育活動の徹底的な見直しと改善・精選案の作成
- ③学校運営協議会での改善・精選案についての熟議と承認→1 学期末 PTA での保護者への説明・周知
 これらの流れで改革を進め、教育活動については1 学期の後半から改善・精選をスタートするとともに、業務補助のために使えるもの(者)は何でも活用する意識で、順次外部人材を教育活動支援に取り入れた。

活動の成果：

- 1 減らす取組**
 ・職員がアイデアを出し合い、研修により取りまとめた改善・精選案を保護者・地域の代表で委員が構成される学校運営協議会で熟議・承認してもらったことで、自信をもって取組を進めることができた。(表1・写真1)
- 2 活用する取組** ※①④は1 学期後半より実施、②③は2 学期より実施
 ①学校運営協議会委員をメンバーに加えたカリキュラム検討により、地域の財を効果的・効率的に教育活動に取り入れることができた。カリキュラム検討は年3 回行い、継続的に教育活動の充実につなげる。(写真2)
 ②教育活動支援を行う「地域活動支援サポーター」の体制を整備し、定期的にスタッフが職員室に常駐できるようにした。日常的に職員が地域での教育活動についての相談・支援を受けることができた。(写真3)
 ③スクールサポートスタッフ・ボランティアを募集し、毎週月・金曜の朝2 時間、様々な業務補助を担ってもらった。プリント類の印刷や提出物の確認、掲示物の作成等、職員の業務削減に直接結び付いた。(写真4)
 ④地元の上越教育大学・学校支援プロジェクトに応募し、学級づくり・授業づくりを研究しているゼミの大学院生6名から、各学級に支援に入ってもらった(年間150 時間)。授業を担当してもらうとともに、TT 指導や担任の業務補助等を担ってもらい、様々な面で担任の負担軽減に結び付けることができた。(写真5)
- 3 その他**
 ・10 月実施のアンケートの結果からは、昨年度に比して「多忙化がやや軽減された」と考える職員は73% (27%は「変わらない」) である。職員全体の平均時間外勤務時数は、徐々に減少傾向にあり、様々な取組により成果が上がってきていることが確認される。(グラフ1・2)

アピールポイント(アイデアや工夫)：

- ・本実践には、地域が学校に協力する体制が整っていれば、どの学校でも実践可能なヒントがたくさんある。
- ・学校運営協議会の承認を受けているということを前面に出すことで、自信をもって改革を進めることができた。
- ・トップダウンではなく、全職員の英知を集めるというボトムアップ型のスタンスで改革に臨んだため、職員の業務改善に向けての意識が高まり、具体的に時間外勤務時数の減少傾向が見られるという成果に結び付いた。
- ・学校運営協議会長や PTA 会長には細かく進捗状況を伝えている。学校だけでなく、地域・保護者・教育機関を巻き込み、コミュニティ・スクールである強みを生かしながら、今後も継続して行う息の長い取組となるように努めたい。

表1 教育活動見直し案(一部抜粋)

項目	改善・精選内容
行事(海に親しむ会)	全校で行う海水浴をやめ、縦割り班での遊び活動を行う。
行事(避難訓練)	毎月行っていた訓練を、必要なものを残し、年間5回に縮減
通知表	2 学期の所見欄はなくし、個別懇談の際に口頭で保護者に説明する。 ※R2 年度は1・2 学期とも所見欄をなくし、懇談で説明する。
日課表	清掃回数を減らし、ロング屋休みの日を増やす。この時間に児童会等の特別活動や個別の補習ができるようにする。 ※日の短くなる季節は、清掃をなくした分の時間だけ下校時刻を早めることを検討する。
学年だより	発行回数は担任の裁量だが、原則は月1回とする。
夏季休業中の登校日	時数確保のために設けていた登校日(半日×3 日分)はなくす。次年度に向けて月曜6 限授業を検討する。
課外活動(マーチング)	R4 年度末をもって、4~6 年生で行っていたマーチングは終了する。R2 年度からは、発表機会を縮減し、徐々に静止演奏に移行していく。

写真1 業務改善研修の様子



写真2 CS委員と行うカリキュラム検討



写真3 支援スタッフに相談する職員



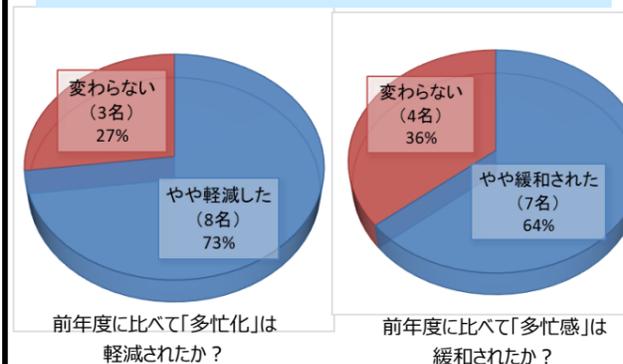
写真4 スクールサポートスタッフの業務支援



写真5 大学院生による授業



グラフ1 多忙化・多忙感に関する職員の意識



グラフ2 時間外勤務時間数の変化(全教職員平均)

